

第20回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会

日時：2016年11月26日 13:00～15:00 会場：佛教大学

20周年記念講演レジュメ

「この国に生まれてよかった この時代に生きてよかった」
障害者権利条約を抱きしめながら 関係者一人ひとりに問われること

NPO 法人日本障害者協議会代表 藤井克徳

はじめに

- ・自己紹介
- ・講演のあらまし

1. 相模原市の障害者支援施設での殺傷事件が問いかけるもの

- 1) わが耳を疑ったあの日の朝のニュース
- 2) 各地から届いた障害当事者の声・反応
- 3) 現段階で容疑者の言動をどうみるか
 - ア. 露骨な優生思想（事件の直接的な動機）
 - イ. 「特殊な事件」だけでは片づけられない
- 4) 政府の対応について（検証委員会の中間まとめの評価など）
- 5) 事件から何を考えるべきか

2. あらためて、「障害」をどうとらえるか

- 1) 障害のある人の数はどれくらい（国際的な考え方、日本でのデータ）
- 2) 発展する「障害」のとらえ方
 - ア. 以前は
 - イ. 今は

3. 日本の障害者政策の水準をどうみるか

- 1) 4つのものさしで見ていくと
 - ア. 市民一般の暮らしぶり比べて
 - イ. 先進国と比べて
 - ウ. 過去の障害者政策と比べて
 - エ. 障害当事者のニーズと比べて
- 2) 看過できない障害のある人をめぐる実態（主なもの）

4. 障害者権利条約（権利条約）の概要と本質

- 1) 権利条約の三大素晴らしさ
- 2) 制定までの経緯（メキシコ大統領による提唱 2001年、2006年12月13日採択）
- 3) 権利条約の押さえどころ
 - ア. 経過面（くり返された「私たち抜きに私たちのことを決めないで」）

- イ. 内容面（新たな障害観、全体を貫く「他の者との平等を基礎として」）
- 4) 権利条約と聴覚障害分野
- 5) 権利条約の法的な効力
- 6) 権利条約をめぐる当面の課題
 - ア. 政府レポート関連（国連へ提出・2016年6月29日、レポートの評価）
 - イ. パラレルレポート関連（政府レポートへの民間からの対抗レポートの作成準備）
- 7) 批准された権利条約に基づく今後の政策課題
 - ア. 基本的な考え方（2つの戦略）（ゼロ地点戦略 横並び戦略）
 - イ. 具体的な政策課題
 - ① 家族依存政策からの脱却（民法改正）
 - ② 本格的な所得保障政策の確立（障害基礎年金制度の改定）
 - ③ 障害分野に関する基礎データの集約・集積
 - ④ 障害関連政策審議システムの抜本改革
 - ⑤ 障害関連予算の水準アップ（GDPに占める分配率の欧米並み）

5. 平和な社会で映える権利条約

- 1) 問い続けなければならない「戦争と障害者」
 - ア. ドイツで起こったこと（T4作戦の実相と本質）（VTR10分間）
 - イ. 日本で起こったこと（戦争体験障害者の証言、精神病院での飢餓殺など）
- 2) 「戦争と障害者」が現代に問いかけるもの

6. 参加者への期待

- 1) 問われる基本的な視座（2つの初心を忘れずに）
- 2) ますます大切になる政策と運動（実践と運動の関係をどうみるか）
- 3) 「たどり着いたところがスタート台」

むすび

■ 参考

NHKアーカイブ アクセス：戦後史証言「障害者福祉～共に暮らせる社会を求めて～」

URL：http://cgi2.nhk.or.jp/postwar/shogen/list.cgi?das_id=D0012200049_00000#main